

書評2

『久保孝雄詩歌集』を読んで

鈴木正実

久保先生、詩歌集「はるかなる青春」、アサヒグラフに掲載された「石川真澄の目」、24日朝受け取りました。大変有難うございました。1日かけて読ませていただきました。

まことに見事な人生です。副知事になったのは付録で、真髓は前半生、特に少年時代から50年代の魂の叫びにあります。

特に私が感動した作品は、「幼き日みた夢一ついまも忘れず 土堤にしゃがみて泣ける亡き母」「冬近き晩秋の夕べは母想う 病冒して働き死にし我が母」、特に「ただ一度母にわがまま言いしことあり 小学二年農協購買部に」には幼いながら、すべてを理解している賢い子供の心情が、そして後になって烈しく後悔しながらも、それでもなお母の無限の愛情をその幼き全身に受けて誇らしくしている作者の喜びがいっぱい広がっていて、私には、あの技巧に懲りすぎた茂吉の絶唱よりもはるかに心に沁みました。

今もそうですが写真を見ても若い頃から久保さんは、ゴリラのような私などとは違ってなかなかダンディですし、洋服が大変似合っています。この衣服に対する関心は、108の「ある会話」の3人の姉弟の会話の中にもありますから、そのあたりが古代から新天皇平将門を輩出したほどに豊かであった筑波山麓の文化的な伝統なのか。

炭鉱にオルグにいった折の、「ひたすらに線路の道を歩みたり 路銀乏しきオルグのわれら」「路銀絶え線路歩きて夜明くれば 極楽のごと見ゆ菜の花畑」の直後に、「美わしき蓮のうてなに糸紡ぐ 母を夢見て旅寝覚めゆく」が出てきてドキッとしました。僭越ながら推量するに、このオルグの日々が、「中国の赤い星」とマルクスの「人類の青春」に殉じた久保さんの人生の絶頂の日々であったのでしょうか。この連作は光り輝いています。また、お父さんが亡くなるときの絶唱にも「死に近き声なき父の手をとれば 極楽浄土よあらまほしけれ」があつて、苦勞し続けた父母が、せめてあの世では幸せになつて欲しいという、悲しいまでの叫びが聞こえてきて、胸つぶれる思いがしました。私なども北海道の開拓の寒村（北見市若松）の二人兄弟の末に生まれて、小さい頃から野良仕事に追いまくられ、貧困の中で死んだ父母のことを想うと、今でも胸ふたぐる思いがするのです。

「ドル無きやとわれに問いたるかの少年 利発なる目にななしみの影あり」も秀逸で、この少年は筆者そのものといつてもよいでしょう。追い詰められたこの少年の悲しみは、そのときのロシアそのものの悲しみなのでしょう。それを一瞬に捉えた作者の目の悲し

みが私にも伝わってきました。そしてもう50歳を超えたこの少年は今どうしていることでしょうか。もともと死んでいるかもしれないし、どこかで富豪になっているかもしれない。そして今、プーチン専制のもとで、心優しいロシアの民衆はどうしているのでしょうか。

さいごに、ある意味では「自分の思い」だけで「勝手気ままに」生きてきた久保さんが、「クリスマス・イヴ」に泣いていた奥さんや心人の娘によって、初めて自分の立場と自分の適性を見つめ、夜更けに独り「いなり鮪」をつまむ決意の姿が、まことに人間らしく思われました。この場面は、「杜子春」の最後で、杜子春が鞭打たれる父母の姿をした馬に「お母さん！」と叫ぶクライマックスを思わせるもので、あのシーンが浮かんできました。人生の転機とは真にこのようなものなのでしょう。私も子供が生まれた後全くそうでした。

立候補のときに貯金通帳を差し出し、懸命に選挙運動をしてくれた奥さんに、「ただ人間性だけを頼りに私を久保に喜んで託してくれた両親に私は心から感謝したいと思います」と言われては、人生もう思い残すことはないでしょう。いくら強がっても、所詮男など、お釈迦様の掌のうえで飛び回る孫悟空以上のものではないのかもしれない。

私は1966年、18歳の時に北海道から水戸の茨大の文理学部に入學して、数年間水哉寮で暮らしていました。きつと奥さんは私の大先輩になるのだと思います。水哉寮に入ったとき、同室に下妻一高から来た大里君という人がいて、その後茨城で小学校の校長になっているようです。懐かしいです。

(中略)

茨城の思い出といえば、人間の質がいいというのが一番です。実直で行動力があり義に生きるすがすがしさがあります。いつもはにかみがちで自分を誇ることが無いのは最大の美点でしょうがしかし最大の欠点でもあります。平将門といい、水戸学や天狗党といい、権謀術数に生きる長州等とは違って、時代に先駆けますがいつも貧乏くじを引く伝統があるようです。私など祖先が会津でその後水戸ですから、まるで貧乏くじの王道を歩いているようなもので困ったものです。

つまらないことを書きましたが、でも久しぶりに大変すがすがしい本を読ませていただきました。有難うございました。最近私が書いた雑文もいくつかお送りしますので、御笑読ください。では、失礼します。奥様にもよろしくお伝えください。